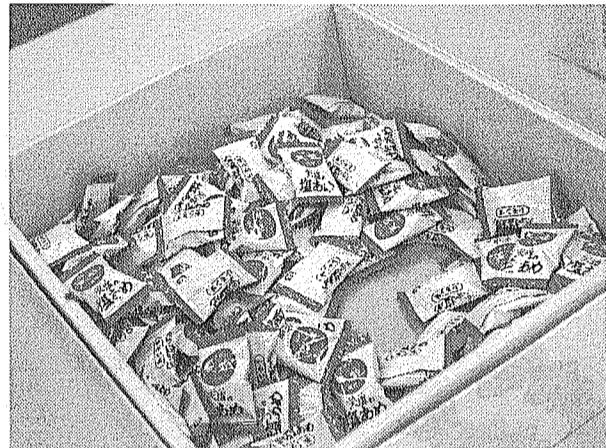


熱中症対策で 先手打つ各社 ドライバー任せにせず



炎天下での荷役作業が多いニッサル物流（早川謙二郎社長、滋賀県栗東市）では、ドライバーの休憩室にスポーツドリンクやお茶、塩分を補給する塩あめを常備し、必ず携行するよう義務付けている。

【滋賀】「ドライバーには熱中症に十分注意するよう言つてい
るが、本人の自覚に任せていい——」。近畿では、梅雨明け前から
例年に無い暑さに見舞われ、気温が35度を超える猛暑日を各地
で観測。熱中症による死者も伝えられる中、運送会社が積極的に
その対策を講じている事例は少ない。しかし、炎天下での作業は
もとより、倉庫や物流施設、待機中の車内も熱中症の危険と無縁
ではない。夏の繁忙期を迎へ、連日奮闘するドライバーの暑さ対
策について聞いた。

上に登り、荷役やシート掛けを行うことが少なくなった。水分や塩分の不足で目まいがしただけで転落事故につながる」と話す。

湖東物流(蘆田敏雄社長)は、数年前から倉庫や物流センターの仕事場を開放し、待機中の労働環境改善に努めている。熱中症の予防には、体内で熱をためない工夫が大切だ。

もに、熱中症の予防に一層注意しなければならない。
毎日点呼場に立ち、ドクターの健康状態に目を光らせる下司清一社長は、「7月は始業点呼の際に栄養ドリンク剤を1本手渡して、

層
出る前に休憩を取る、水を飲むといった予防が大切」と語る。

ドライバーの中には多少の疲れを感じていても、「あと少しで終わるので」「ここまで片付いたら休もう」と頑張る人も多い。作

冷式クーラーを装備したトランクも珍しくなくなつた。しかし、「クーラーを使用した状態で一定時間走行しないと蓄冷されないのでは、近距離だと効果が無い。降車して日陰で待機するよう指示している」というケンタッキー州の夏用のユーハーはスに導入した。

糖尿病、高血圧症、心臓病などの生活習慣病を持つドライバーには、体内の水分が不足すると発作を起こしたり、症状の悪化を招く危険がある。日頃から健康状態

自覚症状出で
からでは遅い

らしい」と警鐘を鳴らす。
現場で安全の力ぎを握るのは、ドライバー一人ひとり。しかし、経営者や管理者は、全てをドライバー任せにせず、「先手を打った対策で社員の命と職場の安全を守る」という視点を持つべきだ。